

COP12/MOP2通信

11月

13日

Kiko

ナイロビ

気候ネットワーク

〒604-8124 京都府京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル305 Tel: 075-254-1011 / Fax: 075-254-1012
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3 半蔵門カードビル2F Tel: 03-3263-9210 / Fax: 03-3263-9463
E-mail: kyoto@kiconet.org (京都) tokyo@kiconet.org (東京) URL: <http://www.kiconet.org/>

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

「京都2」への道筋を明確にせよ！

ナイロビの会議は、京都議定書をベースとした次期枠組み(「京都2」)へ続く、次期枠組みの検討プロセスの行方を占う重要な会議である。すでに起こっている危険な気候変動を防ぐために必要な「京都2」への道筋を明確に世界に示すことが求められている。

それなのに、セキュリティの面から18時に会議が終了することもあってか、13日発行のecoの一面記事「木を見ず森を見よ。(Seeing the forest for the trees)」にも書かれているように、第1週目の交渉は、緊迫感を欠いていた。

議定書の第3条9項のもとでの先進国の更なる削減に関する特別作業部会は、8日に全体会合が開催されたのち、9日にコンタクトグループが開催され、各国の意見を議長がまとめたポイントをベースに議論が進められた(KIKO第2号の記事「議定書3条9項AWG」参照)。11日のインフォーマルコンサルテーションでは、議長から示された文書をもとに議論を進められた。その文書は、長期目標、法的事項、タイムライン、他の機関からの情報提供などに触れられており、さらに、排出削減可能性の分析、排出削減のために実施している政策の見直し、ターゲットの設定などを検討するための作業計画について書かれている。しかし、その内容はどんどん弱い内容になるばかりである。13日になり、午前インフォー

マルコンサルテーション、午後にフレンドオブチェアという議長を中心とした更に小さいグループによる非公式会合が開催されている。

9日に開催された議定書の締約国会合(COPMOP)の全体会合で始まった議定書第9条に基づく議定書の見直しに関する議論も、進んでいない。10日に開催されたインフォーマルコンサルテーションでは、議定書の見直しの範囲や見直しの目的そして、どのように見直しを行うかということについて簡単な意見交換が行われたが、その後は、議長と締約国との1対1の非公式協議が開催されている。

議論が進んでいない主な原因は、議定書の9条のもとでの議定書の見直しをきっかけに、次期枠組みにおいて、現在京都議定書の削減目標を持っている先進国の削減義務だけではなく、幅広い国々の参加の議論の両方を進めたい先進国と、次期枠組みにおいても削減義務を一切負わないという一部の途上国との意見の対立である。

ここでもう一度思い出してほしい。何のために交渉をしているのかを。先進国も途上国も危険な気候変動を防止したいのではないのか。そして考えてほしい。そのために、どうしたらいいのかを。最も気候変動の悪影響を受けるこのアフリカで。

ナイロビ会議で求められているのは、

特に議定書の9条のもとでの議定書の見直しに関する議論において、先進国と途上国で、いたずらに相違点を浮き彫りにすることではなく、危険な気候変動を防ぐために必要な「京都2」につながるしっかりとしたプロセスを作り、議定書の第1約束期間と第2約束期間との間をあげないように、明確なスケジュールを決定することである。

具体的には、我々NGOは、このCOPMOP2で議定書第9条のもとでの議定書の見直し作業を開始させ、「京都2」に関する交渉を開始させるマンデートを2007年に開催されるCOPMOP3で採択することを決定する必要があると考えている。2007年にそのようなマンデートの交渉を成功させるには、議定書第3条9項のもとで扱われる問題以外の課題についても、議論を進展させ、検討の対象を明確にする必要がある。

また、2007年に開催される京都議定書第3回締約国会合(COPMOP3)では、議定書第3条9項に関するプロセスを、議定書第9条のもとでの議定書の見直し作業の結果に関連させることと、そのために必要な交渉の対象となる事項、そして、その交渉が2008年末までに完了するようなタイムスケジュールを決定しなければならない。

木を見ず森を見よ

第1週目の交渉は、緊迫感を欠いていた。京都議定書第9条に基づく議定書の見直しに関する意見の相違は、深い対立を抜け出せずにおり、議定書の見直しという実に重要な議題プロセスの前進を妨害する恐れがある。ecoは、各締約国に対し、これらの意見の不一致を一旦脇に置いて、議定書の見直しのそもそもの目的を思い起こすことを要求する。

モントリオールでは、議定書第3条9項のもとでの先進国の更なる排出削減の検討について、京都議定書の第一約束期間と第二約束期間に間をあけないこと(no gap)に合意した。これは、危険な気候変動を防ぐための努力を奨励させるためには極めて重要なことである。排出削減対策を拡大し、より多くの削減を実現するという両方の要請を実現するためには、議定書第9条の見直し作業は必要不可欠である。議定書の第1約束期間と第2約束期間との間をあけないように、京都議定書の改正の批准が間に合うタイミングで、議定書第9条のもとでの議定書の見直し作業を完了しなければならない。これを実現するためには、議定書第9条の見直しと議定書第3条9項のもとでの検討から必要となる議定書の改正を考えれば、2008年末までに交渉を終え、合意する必要がある。

以前にも書いたように、議定書第9条のもとでの議定書の見直し作業と議定書第3条9項のもとでの先進国の更なる排出削減に関する検討は、相互に連携し、情報交換しながら進められる必要がある。これを実現するためには、2007年に開催される京都議定書第3回締約国会合(COPMOP3)で、議定書第3条9項に関するプロセスを、議定書第9条のもとでの議定書の見直し作業の結果に関連させる一連の決定に合意しなければならず、そのためには、交渉の対象となる事項を決定し、その交渉が2008年末までに完了するようなタイムスケジュールを決定しなければならない。交渉の開始が遅れると、第一約束期間と第二約束期間の間をあけないという目標が意味のないものに

なってしまう。

2007年にそのようなマンデートの交渉を成功させるには、議定書第3条9項のもとで扱われる問題以外の課題についても、議論を進展させ、検討の対象を明確にする必要がある。これまでCOPMOP2では、議定書第9条のもとでの議定書の見直し作業については、条約に書かれた究極的な目的に照らして、信頼できる評価を可能にする十分な準備作業が行われてこなかった。「京都2」に関する交渉を開始させるマンデートをCOPMOP3で採択するには、このCOPMOP2で議定書第9条のもとでの議定書の見直し作業を開始させ、マンデートの決定に発展しうる具体的な結論にCOPMOP3で合意する必要がある。

まず、議定書第9条のもとでの議定書の見直し作業は、とりわけ附属書I国(いわゆる先進国)に対する法的拘束力ある排出削減・抑制の数値目標や、排出量取引といった、京都議定書とマラケシュ合意の基本的なしくみを前提として、議論されなければならない。さらに、この見直し作業は、京都議定書とマラケシュ合意を、これまでのしくみの改善や変更を含め、どれほど改正する必要があるかを確認する目的で行われなければならない。こうした改正は、気候変動枠組条約を支える共通だが差異ある責任原則と衡平の原則と十分に合致するものでなければならない。そして、もちろん、議定書第3条9項の特別作業部会の作業の情報、議定書第9条の見直し作業にインプットされなければならない。

したがって、このCOPMOP2で採択する議定書第9条の決定は、上記の実質的な問題を十分に考慮し、COPMOP3でマンデートを採択するようにするためのものであるべきである。作業スケジュールの採択を2007年以降に先送りしてはならない。これは挑戦的な課題であるが、我々がさらされている甚大で緊急性を有する危険に直面して私たちができる最低限のことである。

気候変動によって失うことのほうが

多い人たち(そのほとんどは途上国に住んでいる人たちである)には、この会合で議定書第9条のもとでの議定書の見直しに関する強力でしかし時間を限定した決定と、COPMOP3で完全なマンデートの決定を採択することを支持する2つの強い理由がある。第一に、そうすることによってのみ、世界が危険な気候変動を防ぐ見込みをもてるからである。2つ目の理由は、附属書国の排出削減目標がより大きなものになることによる資金供与や技術移転の拡大と京都メカニズムの強化が、適応やクリーンエネルギーへの投資に途上国が必要な数十億ドルといった莫大な資金を生み出すことができるからである。こうした資金の流れは、明確なマンデートの決定なしには、決して実現しない。

(eco 11/13号抄訳)

CANの新しいウェブサイト

気候行動ネットワーク(CAN)の新しいウェブサイトがリニューアルした。ナイロビ会議で議論されている議題に対するCANの意見や、発言ペーパー、CAN主催のサイドイベント案内、ニュースレターeco、そして、会議の様子を伝えるブログを読むことができる。
<http://www.climate-network.org/>(英)

ワガリ・マータイさん現る!

2004年にノーベル平和賞を受賞したワガリ・マータイさんが会場に現れた。といっても会議に参加するためではなく、彼女が最近出版した自伝「UNBOWED」販売するためである。本を購入した人は、マータイさんのサインがもらえた。

Kiko COP12/MOP2 通信 No.3

2006年11月13日発行

発行/編集 気候ネットワーク

川阪京子、早川光俊

現地携帯 +254 (0)720 081 782 (川阪)